資料２

岩手県東日本大震災津波復興委員会
第３回女性参画推進専門委員会の概要について

１　開催概要

(1)　日時・場所

平成27年７月10日(金)　13:30～15:30　　岩手県水産会館

(2)　出席者

委員12名（１名欠席）

(3)　審議事項等

①　復興に係る男女共同参画の取組について
②　「いわて復興レポート2015(案)」について
③　「岩手県人口ビジョン(仮称)(素案)」について
④　「岩手県ふるさと振興総合戦略(仮称)(骨子案)」について
⑤　三陸復興・振興方策調査について
⑥　平成27年度における取組について

２　審議概要

(1)　復興に係る男女共同参画に係る取組について

［福田委員］

・　当初よりも、一人ひとりの相談にかかる時間が長くなってきており、被災後も地元に残っている方には、**先の見えない精神的な悩みを抱えている**ケースが多く、**心のケア対策は縮小せずに続けて欲しい**。

［平賀委員］

・　当初から相談業務に関わってきているが、被災地には特殊な悩みや相談が多く、これからますます**寄り添いや心のケアが重要になってきている**ので、それらの事業は**これまでと同様に継続すべき**。

(2)　「いわて復興レポート2015(案)」について

［両川委員］

・　**子どもたちの成長、発育、心の問題の回復状況を表す指標**が必要ではないか。

［盛合委員］

・　復興が進む中で、人間関係や家族の問題など、被災地には**表に出ない深い問題があるの**で、**アンケートや調査の回答が全てではないことを理解**するとともに、そういった問題を把握し、**地域がひとつになるようなケア**にも取り組んで欲しい。

［髙橋委員］

・　被災地域をまとめなければならない自治会長は業務も多く、また、悩みを打ち明けられる場所もなく、大変つらい思いをしている。様々な人に寄り添えるよう、**被災地には更にきめ細かなケアが必要**。

［瀬川委員］

・　沿岸地域は大型車両が多く、**常時、子どもたちの登下校の見守りが必要**になっている状況。

［佐賀委員］

・　応急仮設住宅に住んでいる世帯と、退去した世帯に**精神的な格差**が生じているとともに、**ケアを要する児童や保護者が増えており、深刻度も増している傾向**にある。

［山屋委員］

・　住まいの再建状況などにより、世帯単位の復興に**二極化**が進んでいる。再建が進まない人々への**心のケアの取組がまだまだ重要**であり、また、**支援者が家族に入り込んで相談やケアが行えるような仕組みが必要**である。

⑶　「岩手県人口ビジョン（仮称）（素案）」について及び「岩手県ふるさと振興総合戦略（仮称）（骨子案）」について

［両川委員］

・　**地元で生まれ育ち、さらに学べる魅力ある環境**の中で地元に残る人が増えていく流れが作られれば良い。

［髙橋委員］

・　コミュニティが大事、**魅力あるコミュニティが作られれば、農林水産業の担い手も出てくる**。そういう意味では、市町村との協働体制を強化するのは良いことと思う。**どんどん現場に足を運ぶべき**。

［山屋委員］

・　「〇〇にくさ」を無くすには、**性別役割分業意識を無くすことが重要**。（妻でも夫でも）共に出来ることをお互いに担うことが大切である。そういった意識づくりには、若い人は柔軟に対応している。

［盛合委員］

・　長期的な将来のビジョンなので、**将来を担う小・中学生に意見を聞くべき**。岩手への想いや将来の希望など、地元に残ってもらえるような施策に直接つながっていくのではないか。

⑸　三陸復興・振興方策調査について

［菅原委員長］

・　ヒアリングの対象となるキーパーソンについては、男性中心とならぬよう、**女性や若者も取り入れるべき**であり、なおかつ、**全国的な地方全体の一般論にならぬよう、地域に根ざしている人**とするべき。

⑹　平成27年度における取組について

委員会（なりわいワーキンググループを含む）として、**「被災地の社会的課題を解決するビジネスモデル」**をテーマに、三陸の復興施策について議論を深めていくこととした。